

拓本をとってみよう！

モノの凹凸を紙に写しとる方法を思い浮かべてみてください。魚釣りが好きな人なら魚拓(ぎょたく)、ミステリー好きの人なら現場に残された紙を鉛筆でこすって文字を浮かび上がらせてみたり、小さい頃10円玉の上に紙を置いて鉛筆でこすったことはありませんか？

考古学の調査でも考え方は同じです。考古学では凹凸の記録を得るために、「拓本」をとります。「拓本」は土器や瓦の模様を写し取るための方法で、発掘調査で見つかった資料の調査には欠かせないものです。コツがありますが、誰にでも簡単にできて、目で見てもはっきりとしない模様、拓本を採ることで細かい部分までよく分かるようになります。とはいえ、直接墨を塗った、上から鉛筆でガリガリこすっては大切な資料を傷めてしまいます。

今回は、資料を傷めない「拓本」の採り方をご紹介します！

拓本の手順

1. 道具と拓本を採りたいものを準備する(鴻臚館跡の発掘調査で出土した瓦を用意しました)
2. 瓦の大きさに合わせて紙を切る
3. 紙を瓦にのせ、霧吹きで濡らす
4. 脱脂綿で余分な水を取り除きながら、空気を抜く
5. タンポで墨を打ち、模様がきれいに出たら、紙をはがす
6. 新聞の間に挟んで乾かす

1. 道具と拓本を採りたいものを準備します



- ・紙(画仙紙)
- ・ハサミ
- ・拓本用墨(墨の粉を油で練ったもの)
- ・タンポ(わたを絹布でくるんで糸で巻きとめたもの。大・中・小があると便利)
- ・霧吹きと水
- ・脱脂綿
- ・新聞紙
- ・瓦

画仙紙って？

書画に用いられる大判の用紙です。普通の紙よりも水に強くよく伸びるので、拓本をとる時はこの紙を使います。書画の用品を取り扱う文房具店などで購入できます。

2. 瓦の大きさに合わせて紙を切ります。



少し大きめ、余裕を持たせて切るのがコツ！

3. 霧吹きで水を吹きかけて濡らします。



全体に紙が張り付いたら、少し乾かします。全体が生乾きになって、白っぽくなったら、次の工程へ…

4. 脱脂綿で余分な水を取り除きながら、空気を抜いていきます。模様の凹凸に紙をなじませて…



なるべくしわにならないよう気を付けて…



ぺったり！

5. タンポを使って墨を打っていきます。



大きめのタンポに一度墨を付け、小さなタンポをこすりつけて墨を取り、この小さいタンポで墨を打っていきます。こうすると墨を打ったときにムラになりにくくなります。



模様がきれいに出たら、紙をはがします。

6. 新聞紙に挟んで乾燥させます。



しっかり乾いたら…**完成!**

左の写真より文様ははっきりと見えるようになりました。

